

平成28年2月5日

経済産業省 産業技術環境局

**(これまでの検討経緯)**

○我が国が、世界から求心力を持った形で「稼げる」国としての位置づけを確保していくためには、迅速に高い付加価値を創出していくことが必要。

○企業間競争の時間軸がこれまでとは桁違いに短縮している現下の状況においては、日本の持つ「強み」「優位性」を活かした戦略を策定するとともに、国内外問わず優秀な人材を確保・流動化しながら、企業、大学、ベンチャー企業等の各プレイヤーにおける価値創造に係るスピード感を高めることがますます求められている。

○しかしながら、高付加価値創出のスピードを確保する手段であるオープンイノベーションについては、近年、社会の潮流として盛り上がりつつあるものの、10年前と比較して、依然半数の企業が、「組織としてのオープンイノベーションの活性化についてはほとんど状況が変わらない」と認識。(※)

※第3回小委員会 資料4「オープンイノベーションに係る企業的意思決定プロセスと課題認識について」

○改めて、オープンイノベーションに係る課題を洗い出し、対応策を検討することが、我が国がイノベーションを推進するにあたって非常に重要であるとの認識を前提に、今般、過去の当局の研究会のスコープの中心であった研究開発活動だけではなく、組織的意思決定プロセスなど、技術以外の要素も多分に含まれるという考えに立ち、有識者ヒアリングやアンケート調査等を踏まえつつ、企業の研究開発投資行動等についても踏み込んで議論を実施。

**(今後対応の方向性)**

○これまでの議論において洗い出された課題を踏まえ、オープンイノベーションの施策を検討するにあたり、1つのアプローチとして、連携の段階・目的によって、オープンイノベーションを3類型に整理するとともに、各類型においてスコープ毎に問題点及び施策案を整理した。

**※オープンイノベーションの3類型**

- |  |                 |
|--|-----------------|
| ①アイデア創出のためのオープンイノベーション（目的探索型の外部連携）                           | 例）アイデアソン、ハッカソン等 |
| Goal：グローバルな規模で、社会に求められている価値やアイデア、及びその実現手段の発見                 |                 |
| ②研究開発加速のためのオープンイノベーション（手段探索型の外部連携）                           | 例）産官学連携やスピンアウト等 |
| Goal：外部連携による、研究開発期間の短縮                                       |                 |
| ③社会実装・市場獲得のためのオープンイノベーション                                    |                 |
| （生み出される価値を最大化するための外部連携） 例）オープン・クローズ戦略等                       |                 |
| Goal：サービス・ソリューションの価値を最大化するための、<br>多様なプレイヤーとの協調等によるビジネスモデルの構築 |                 |

**※施策のスコープの分類**

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| A. 組織の在り方見直し   | ：企業、大学等、「主体そのもの」に係る施策      |
| B. 人材・技術の流動化促進 | ：産学連携、企業×ベンチャー等「連携関係」に係る施策 |
| C. 環境整備        | ：それらを支える「環境整備」のために行う施策     |